

平成29年度 第2回 東近江市市民協働推進委員会 会議録

◆開催日時 平成29年8月31日(木) 午後7:00～9:15

◆開催場所 東近江市市役所新館 319会議室

◆出席者

市民協働推進委員 深尾昌峰、森井源藏、太田裕子、森下瑠美、築山清美、北井香、
荷宮将義、大林恵子、藤澤彰祐、大橋正徳、板倉元、横田真也
(欠席 小倉昌和、楠神渉、細居悦子)

事務局 総務部理事 野神、まちづくり協働課 曾羽、久保、村井
(傍聴者:0人)

◆議事

- 1 「共に考え、共に創る」わがまち協働大賞について
- 2 市民協働推進計画の進捗管理と検証・評価の方法の検討について②

◆会議録

開会

【事務局より開会の挨拶】

(理事挨拶)

皆さん、こんばんは。本日は、平成29年度の第2回の市民協働推進委員会を開催させて頂きましたところ、委員の皆様には大変御多用の中、御出席を賜り誠にありがとうございます。日頃から、皆様方には東近江のまちづくりに、それぞれのお立場から格別のお力添えを賜っておりますことを厚くお礼を申し上げます。

この度、8月1日付けの人事異動により、前任の川南に代わりまして、地域振興担当理事を拝命いたしました。市民の皆さんと行政との協働によりまして、豊かな地域社会ができますよう、微力でございますががんばってまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

さて、本委員会は、平成24年度から第3期目を迎えております。第1期には、本市の市民協働のまちづくりの指針である「協働のまちづくり条例」や、そのアクションプランである「市民協働推進計画」を策定いただきました。その「市民協働推進計画」を実効性あるものにし、総合的に推進するための仕組みや制度づくりについて、皆さまには、地域の現場に足を運んでいただいたり、市民の皆さんの意見を聞きながら、本当に熱心に御検討いただいております。今後も、これらの取組をさらに充実したものにするための検討や新たに取り組むべきことについて、御意見を頂戴できればと思います。

引き続き、東近江のまちづくりについて皆さまの豊かな御経験と御見識を賜りたいと存じますので、どうか忌憚のない御意見、御提言を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

【委員長より挨拶】

皆さま、こんばんは。

まず、皆さま方には、事前にわがまち協働大賞について審査をしていただきました。今年

もたくさんの応募をいただいて、皆さん方に点数をつけていただきましたので、今日は絞り込みの議論をしていくのと、前回から推進計画の進捗管理をもっと有意義なものにしようと、評価の仕方などを議論をしていただいておりますので、引き続きしていただきたいと思いません。

今日も、いつものように自由に活発に議論をしていただければと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

まず最初に、協働大賞の第1次選考について、結果を含めて事務局から説明をいただいて、私たち委員会としてはエントリーしていただいた21の事業の中からヒアリング対象を10団体程度に絞り込むということをしなければいけません。皆さんがつけていただいた点数を集約しておりますので、それも参考にしながら、委員会として絞り込みをして、ヒアリングに向かって進めていきたいと思えます。では、事務局からの説明をお願いします。

【協働大賞について】＜選考については非公開＞

(委員長)

では、続いて市民協働推進計画の進捗管理と検証・評価の方法について、前回の議論を踏まえて事務局でブラッシュアップしていただいたので、紹介をして、こういう方向性で良いのかななどを改めて議論していただきたいと思えます。

【市民協働推進計画の進捗管理と検証・評価の方法の検討について②】

・資料6、7に基づき事務局より説明

(委員長)

前段にもありましたが、日本人は評価というと懲らしめられるというようなイメージが強いのですが、それよりも応援したり褒める評価もあって良いですし、改善支援につながるような、より良いものにしていこうということです。

また、評価の時に、やってる人だけを一方的に責めるのではなくて、いろんな視点で取組を明らかにすることによって次の政策につなげていくという発想で議論をしてきました。前回の議論を踏まえてシートを工夫をしていただいて、これをもとに委員会で目標設定等を考えてチェックをしていくわけですが、今年度の残りの委員会で議論をしていけば良いです。今日はシートの試案を作っていただいておりますので、もう少しこういう項目が必要なのではないかとか、ここはこういう観点で留意した方が良いのではないかとか、気づいたことを言っていただければと思えます。

思いとしては、こういった評価方法が行政で広がっていくと、いろんなことが見えてくるし、成果を意識するような事業が増えていくと、いろんな無駄がなくなっていくのではないかとかということです。この委員会としても、ただ単なる進捗管理でできている・できていないということではなくて、成果を意識していこうということです。ぜひ自由に意見を出していただければと思えますが、いかがでしょうか。

(委員)

事業をしている立場で書いてみたのですが、そもそもどうして評価や検証をするのか、誰

のための評価や検証なのか、事業をしている団体のためにするのかということがよく分からないまま、成果目標をとりあえずこんなことがあるんじゃないかということを書きました。

例えば、こらぼ村だと協働の視点からいろんなことを書けるのですが、パブリックアクセスだと、なかなか協働から見た成果や目標を挙げにくくて、事業をしている立場としては、そもそも協働を進めるためにこの事業をしてきたという意識があまりなくて、副産物として協働が生まれれば良いなというくらいにしか思っていなかったなので、成果目標をどう書けば良いかというヒントがなくて、どういう基準や指標で考えれば良いかということが分からなかったです。

(委員長)

今の話のようなことでも良いと思います。パブリックアクセスはそういう位置づけという見方もできますし、他の人からすると違った見方もあると思います。指標自体をこの場でも一度考えてみることも大事だと思うんですね。協働のまちづくりですので、パブリックアクセスでいうと「情報流通することがまちのことに興味を持ってもらうような基盤だ」という話だと思うので、そういう記述で十分だと思います。

成果目標のところは、「こういった観点で決める」ということさえ合意が取れば、もう一度皆さんでこの成果目標で良いかということのを改めて考える必要があると思います。実際書いてみると悩みが出てくると思いますし、成果目標をどう設定するかで、後の評価が変わってきますので、非常に重要ですよ。そこも悩みながらこの委員会として設定できればと思います。

(委員)

私はもう少し具体的な評価をしていく方が良いと思います。市民の人がこの評価を見ても何をどうするかが分からなくて、委員と行政の人が勝手に評価をしているとなるといけないので、具体的な事例を挙げたりする方が市民の方には分かりやすいと思います。

(委員長)

事例をどのように扱うかですが、市民協働推進計画がどれだけ東近江市として進められているかというチェックをするということがこの委員会の役割なんですね。ですから、この評価も、私たちが勝手に作っているとと言われるとそうなのですが、こういう形でこのように評価してますということを市民の皆さんに示す必要があると思います。

今までの行政の進捗管理はたいてい○×△なんです。これは終わった、やっている途中、来年からやりますといったようなことしか挙がっていないので、それではあまり意味がないよねという話でした。

体系的に表現してみるとどうなるかというチャレンジだと思いますので、市民向けには事例もあると非常に分かりやすいので、きちんと表現していくということを意識したいですね。このシートだけが一人歩きするというよりは、実際にこのような協働事例があったとか、行政職員の機運があがっているとかを、どういうふうに表現していくかも同時に考えていきたいですね。

(委員)

企業のチェックでは、実際にどれだけ成果があったかという評価が非常に重要だと思うのですが、市民協働ということになると、取組による副次的な効果という部分が気になってきて、この部分は目に見えないところだと思います。目標に対する評価は数字やアンケートといった具体的なものを出すとして、副次的な成果という欄については、ポジティブに考え得る可能性を羅列していくくらいでいいんじゃないかと思います。実際に目に見えてなくて、意識していないところで影響を与えているのはとても多い部分だと思うので、この事業をすることによってこんな良いことがあるんだということを表現できれば良いなと感じました。

(委員長)

大事ですね。そういう視点もあるよねというところから、もう少しこの部分を引き出した方が良いということが生まれるのも良いですし、事業をしている人が漠然と感じていることをこの欄で表現できれば、意味づけをしてあげられると思います。

例えば、わくわくこらぼ村は市民協働の事業としてやっていますが、実は副次的に防災や福祉といった分野にもつながることも当然あると思います。こういったことがあると、まちづくりとしての協働がきちんと表現されていくと思うので、ぜひできるだけ初めは豊かに表現ができればと思います。主観で良いと思いますし、根拠をつけられるものは根拠づけていきましょう。

(委員)

協働大賞は、今回3回目ですが、1回目2回目に表彰された団体に表彰されてどうだったかや、良い点も悪い点も含めて聞いてみるということが良いのかなと思うのと、市民協働委員会から派生したラウンドテーブルについても、先日まちのわ会議をしましたが、開催したことで関係者が集まって次の話につながっているというようなこともありますので、聞いていくということが必要かなと思います。

(委員長)

「聞く」ということですよ。関わっている人たちに聞かないと分からないですし。現実的にはどれだけ手間やコストがかけられるかという点がありますが、できればそのように聞いてこの評価が次の価値を生み出すような、もっと良くなっていくと良いですね。

成果目標のところは、事業をする前に設定しておくべきことも多いので、その辺りはもう少し設計をしなければいけませんね。

(委員)

シートの見方の確認ですが、例に挙がっているのであれば、2-3-3の「交流する機会の創出」を進捗管理するということが良いですね。そのために具体的に挙がっている3つの事業を評価して、この3つをすることによってこんなことが成果として出てきたということなので、もし成果や評価をもとにもっとこういう事業をしていけたら良いなということも含めて書いていくというイメージでしょうか。

(委員長)

「市民協働推進計画」の評価の視点という資料に記載されている基本施策に、35の事業群があって、資料のとおりこれまでは〇×で進捗管理をしていました。資料7の例であれば、基本施策②活動基盤の整備～支える～の3の3交流する機会の創出なんですね。これに位置付いている事業を具体的な内容としてシートにあげて、それに対して評価する。ですので、計画で言っている「交流する機会の創出」と、もしかするとミスマッチしているかもしれないということも当然評価してもらったら良いと思います。

もっと違ったやり方があるんじゃないかとか、こういう人たちと協働型で実施したらもっと成果が高まりますよねということは、すぐできるできないにかかわらず、今後の展開や改善のところに書いたら良いと思います。こういう点で、こういう考え方があるよねということを書くことで、行政に少しでも生かしてもらって、また次の年に委員会でチェックする時にどういう評価になるかということです。そういう意味で改善支援になると良いですし、改善で書いたことが市役所としてできないとなった時に、市役所だけに押しつけるのではなくもっと良い形にしていくにはどういうものを結びつけていけば良いかということは、この委員会でも議論できていくと、本当にPDCAサイクルが回っていくと思います。

基本的に事業をされている方は一生懸命やったださって、良い評価は必ず出てくると思いますので、その中で新しい発見や副次的な効果や次につながるような評価をしていけると良いですし、中には抜本的に見直した方が良いものや、この位置づけでこの事業はあまりふさわしくないというものも出てくるかもしれません。評価をすることで、誰かを追い詰めるのではなく、みんなで良くしていこうという風に生かされる言葉遣いや表現の仕方もこの委員会で議論をしていきたいと思います。

悩みながらも事務局やまちづくりネットで作成していただいたシートの案や、これまでの議論を通してイメージがついて理解していただければ、次回の委員会では今回の意見も踏まえて、5つの事業について案を準備していこうと思います。PDCAでいくと、実際にどういことが行われたかというDのところに記載しづらくて、表現の仕方は別に分けても良いのかなという気がしていますが、もう少し整理が必要かなと思っています。

行政事業でこういった評価が広がっていくと、手間はかかりますが〇×ではなく可視化されていくと思います。

では、今日の議論や意見を参考にして評価シートをブラッシュアップして、次回以降につなげていきたいと思います。先ほどの副次的な効果など非常に良い意見が出ましたので、PDCAがちゃんと回って改善支援につながるようなものにしていきたいですね。

【事務連絡】

- ・わがまち協働大賞 副賞募集のお願い
- ・にじまちぶらすの紹介
- ・にじまちサポーターズ（事業寄付制度）の案内

閉会